

平成28年度

全国学力・学習状況調査の
結果について



海老名市立杉久保小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成28年4月19日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「漢字の読み」では、「貯金」をよく読めている児童が多く、「漢字の書き」では「種」を書くことができる児童が多いです。
- 「読むこと」では、目的に応じて、図と表とを関係付けて読み取ることができています。
- 「言語についての知識・理解・技能」では、毛筆で用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めることができます。

《努力を要する所》

- 「漢字の書き」では、「相談」を書くことができない児童が多いです。
- 「言語についての知識・理解・技能」では、ローマ字「ringo」「asatte」を書いたり、「hyaku」を読んだりすることができていません。
- 「読むこと」では、物語を読んで、複数の叙述を基にして人物像をとらえることができていません。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「話すこと・聞くこと」では、目的に応じて、質問したいことを整理することができています。
- 「読むこと」では、目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読んだり、本や文章を比べて読んだりするなど効果的な読み方を工夫することができています。

《努力を要する所》

- 「書くこと」では、目的や意図に応じ、グラフや表を用いて、自分の考えが伝わるように工夫して活動を報告する文章を書くことができていません。
- 「読むこと」では、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができていません。

これまでの取組から

- 「漢字の読み・書き」を国語学習の基礎とし、授業や家庭学習等で練習する場面を設けてきました。漢字を自ら活用し、応用する技能を高めていく必要性があります。
- 「書くこと」では、授業での作文指導や家庭学習の日記活動等で慣れさせてきました。「読むこと」と関連付けて語彙力を高める必要性があります。

今後の具体的な取組について

- 「漢字の読み・書き」では、日頃から積極的に活用する意識をもたせます。例えば、授業では作文、新聞・リーフレット作りなどで積極的に漢字を使わせる指導をし、家庭学習では日記・短文作り等で経験を多く積ませます。
- 「書くこと」では、国語辞書を積極的に引いたり、読書や新聞の活用をしたりする等、「読むこと」と関連付けた指導を継続していきます。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「数と計算」では、整数や小数の大小関係を不等号を使って表すことがよくできています。
- 「量と測定」では、三角形の底辺に対応する高さを選ぶことについてよく理解できています。

《努力を要する所》

- 「数と計算」では、 $18 \div 0.9$ のような「整数÷小数」の計算ができていません。また、分数のかけ算も計算方法が定着していません。
- 「量と測定」では、単位量あたりの大きさを求める際の立式ができていません。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 辺の長さや面積の関係調べで、条件を変更した場合について発展的に考察することはよくできています。
- 「図形」では、正方形に円が内接するときの円の半径が図のどこを通るかについて理解しています。

《努力を要する所》

- 日常生活の事象を数理的に捉えて場面を式に表したり、その意味を解釈したりすることができていません。
- グラフを比較する際、それぞれの目盛りの大きさなどに留意して読み取ることができていません。また、そのことについて根拠を明らかにして説明することもできていません。

これまでの取組から

- 校内研究を通して、式や図、言葉などを使って自分の考えをもち、発表する場を多く設け、家庭学習等で復習する習慣をもたせました。基礎的知識を定着させ、文章読解力等を高めていく必要性があります。

今後の具体的な取組について

- 根拠を明らかにして自分の考えを表現する力を高めるために、校内研究を通して「図、式、言葉をつなげて説明する」ことを大切にしていきます。
- 数学的な考え方を日常生活に活用する場面を学習の中に意図的に入れます。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

○「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という設問では、そう思う、どちらかというそう思う児童が県や全国の平均よりも高い結果となりました。

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいますか」という設問では、当てはまると答えた児童の割合が、県や全国の平均よりも約10ポイント以上高い結果でした。

《課題と思われる所》

○算数の言葉や式を使って、わけや求め方などを書く問題に対して、苦手としている児童の割合が県や全国の平均より高い結果でした。

○400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことが難しいと感じている児童の割合が高い結果でした。

○今回の調査（国語・算数）に取り組む時間が足りなかったと答える児童の割合が高く、時間内で処理する力に課題がありました。

生活について

《よかった所》

○「学校のきまりを守っていますか」という設問では、守っている、どちらかといえば守っていると答えた児童は94.9%と県や全国の平均を上回りました。

○「自分にはよいところがあると思いますか」という設問では、当てはまる、どちらかという当てはまると答えた児童は76.8%と県や全国の平均を上回りました。

《課題と思われる所》

○普段1日あたりの携帯・スマホの使用時間4時間以上の児童の割合が県や、全国の平均より高い。また、30分以上の使用になると、県や全国の平均と比べて15ポイント以上高くなっています。

○普段の家庭での学習時間が30分未満の児童が約30%、休日全くしない児童が約26%と学習習慣ができていない児童の割合が高いです。

○普段30分以上読書をする児童の割合が高い一方、全くしない児童が約30%と高く、読書する時間が二極化しています。

これまでの取組から

○日々の学習の中で、話し合い活動や調べ学習を多く取り入れてきたため、意欲が向上している。今後は自分の考えを文章にまとめたり、発表したりするなどの、言語活動を充実させていきます。

○言語活動の充実を目指し、今まで以上に読書活動を教育活動に取り入れます。

今後の具体的な取組について

○家庭学習の充実を目指し、学年の発達段階をふまえ、体系的な学習のあり方を検討する。その際、保護者の理解と協力を得るため、連携を十分に図るようにします。

○携帯電話やスマートフォンに関する子どもへの「ネチケツ」を学ぶ機会を設けるとともに、保護者へ様々なネットトラブルの現状や気を付けたいことを伝えていくようにします。



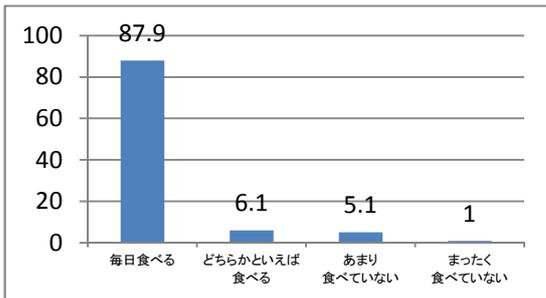
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 毎日、朝食をとりましょう。

朝食は一日の活動の大切なエネルギーです。しっかりと朝食をとらせ、登校させてください。

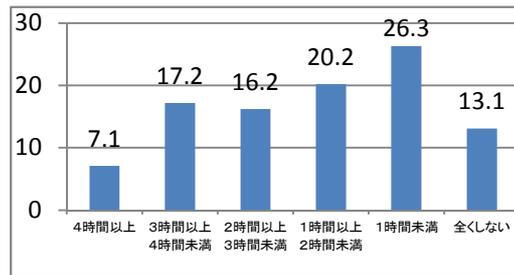
朝食を毎日食べていますか。



2 テレビゲームやPC・スマホゲームなど、時間を決めてやりましょう。

ゲームをする時間を決めるなどをして、家族とのコミュニケーションの時間を増やすことも大切です。

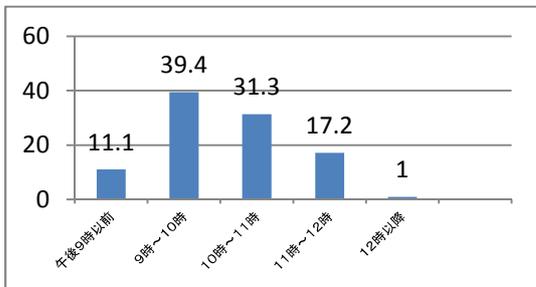
普段一日どれぐらいの時間ゲームをしますか。



3 睡眠時間の確保を。

体をつくる成長期の子どもたちにとって、睡眠は大切です。

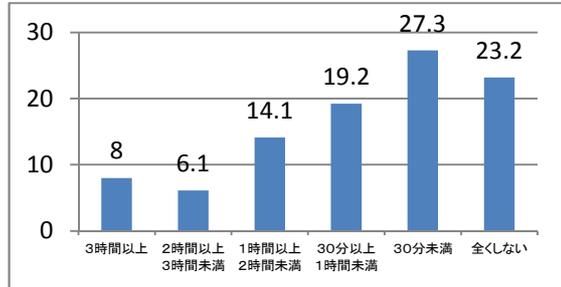
普段、何時ごろに寝ますか。



4 携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをするときのルールを家庭で決めましょう。

携帯電話やスマートフォンなどを安易に与えず、与える際には必ず家庭のルールを決めましょう。

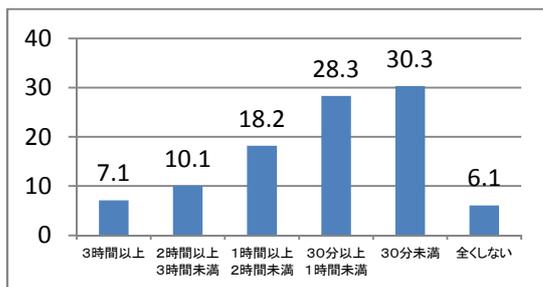
普段一日あたりどれぐらいの時間、携帯やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。



5 毎日、家庭学習の時間を決めて勉強しましょう。

毎日の積み重ねが学習の定着につながります。

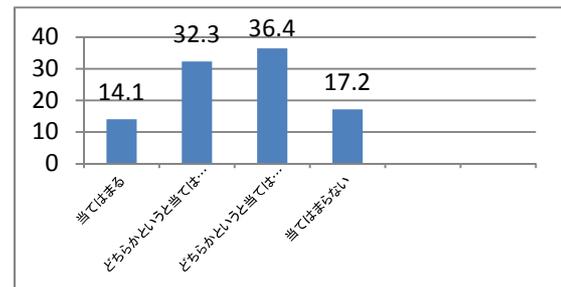
普段一日あたりどれぐらいの時間、勉強をしますか。



6 地域とのつながりを大切にしていきましょう。

子どもは地域で育ちます。今後も地域での行事に進んで参加するようながしてください。

今住んでいる地域の行事には参加していますか。





平成28年11月